

福島連帯キャラバンに参加して

全港湾九州地方博多支部 松元 大知

3月4日から7日にかけて行われた福島連帯キャラバンに初めて参加しました。これまで私は原子力発電や福島の事故についてニュースなどで知る程度であり、深く考える機会は多くありませんでした。しかし、避難されてきた方々のお話を直接伺うことで、事故の影響が今も続いていることを改めて実感しました。

福島第一原子力発電所事故から15年が経過していますが、避難生活や地域の再建など多くの課題が今も残っていました。住み慣れた地域を離れて生活しなければならない現実には、非常に重く受け止めるべき問題だと感じました。

また、茨城県にある東海第二原子力発電所では、再稼働や避難計画について各市町村の役場で議論しました。

今回のキャラバンを通して、事故の記憶や課題を風化させないことの大切さを改めて感じました。今後もこの経験を忘れず、原発問題について考え続けていきたいと思います。